

## 2016～2018年の世界の廃プラ取引データおよび中国の国外廃棄物輸入禁止措置による他国への影響

——輸出入それぞれで上位を占める21の国・地域の輸出入データ分析

### 要旨

2018年、中国が異物の混入した「リサイクル可能」な廃プラスチックを輸入禁止したことにより、世界のリサイクルシステムのバールが剥がされ、無駄が多く有害なリサイクル貿易の実態が露呈した。その影響は世界に及び、現在プラスチックは適切な行き先を失っている。中国の禁止措置により、以下二つの主な傾向が生じている。

(1) プラスチックの大半が規制の緩い国・地域に向かうようになった。東南アジアが中心だが、他にも極めて大量の輸入を遮断するための十分な規制がない地域、あるいは実質的な廃棄物処理能力が一切ない地域も含む。

(2) 世界全体では、プラスチックの総輸出量は2016年から2018年でほぼ半減した。かつての輸出国も今では溢れた分の廃プラを抱えており、未処理もしくは適切な処理がなされていない。上記の期間中に、メディアは現地のリサイクルおよび廃棄物処理システムの混乱を報じた。収集の中断に加え<sup>1</sup>、収集されたりリサイクル可能廃棄物が埋め立て地、焼却炉<sup>2</sup>、蓄積<sup>3</sup>、違法輸出<sup>4,5</sup>に向かうという事態もあった。

本データ分析では、2016年1月から2018年11月の廃プラの輸出入それぞれで上位を占める21の国・地域の輸出入状況について詳細を述べ、プラスチック危機の広がり、および輸入禁止措置に対する世界の産業界の対応について考察する。すなわち、禁止された輸出ごみが瞬間に非効率な形で、規制が整備されていない別の輸入国に向かうという状況である。

中国の禁止措置を前に、当初輸出先とされたのは、マレーシア、ベトナム、タイだった。中国による禁止措置の完全施行から6カ月後の2018年中頃までに、上記3国はそれぞれ独自の規制を設けた。するとすぐに、世界の輸出廃プラ(大半が米国、ドイツ、英国、日本による)は一斉にインドネシアとトルコへ向かった。現在、この2国が世界の主要輸入国となっている。本レポートでは、問題を内包する二つの主な傾向を軸に、リサイクルの崩壊を浮き彫りにする。プラスチックの生産量が増え続け、予測通り今後10年で40%増になれば、この状態は一層危ういものになる<sup>6</sup>。

<sup>1</sup> Trashed: China is forcing small-town America to stop recycling, <https://www.scmp.com/news/world/united-states-canada/article/2183075/trashed-china-forcing-small-town-america-stop> (published Jan 22, 2019, last accessed Apr 1, 2019)

<sup>2</sup> Recycling: Where is the plastic waste mountain? <https://www.bbc.com/news/science-environment-46566795> (published Jan 1, 2019, last accessed Apr 1, 2019)

<sup>3</sup> Japan finds itself buried in plastic waste after China stops importing world's trash, <https://www.rt.com/business/441847-japan-plastic-ban-china/> (published Oct 21, 2018, last accessed Apr 1, 2019)

<sup>4</sup> Tons of illegally imported plastic waste found in Lat Krabang district, [http://thainews.prd.go.th/th/news/print\\_news/WNSOC6106020010019](http://thainews.prd.go.th/th/news/print_news/WNSOC6106020010019) (published Jun 1, 2018, last accessed Apr 1, 2019)

<sup>5</sup> Philippines rejects contaminated South Korean waste. <https://www.ft.com/content/bf6eace8-e892-11e8-8a85-04b8afea6ea3> (published Nov 15, 2018, last accessed Apr 1, 2019)

<sup>6</sup> \$180bn investment in plastic factories feeds global packaging binge. <https://www.theguardian.com/environment/2017/dec/26/180bn-investment-in-plastic-factories-feeds-global-packaging-binge> (published Dec 26, 2017, last accessed Apr 15, 2019)

## 目次

A. 要旨	1
B. 主な調査結果および主要な考察結果	2 - 4
(1) 主な調査結果	
(2) 10 の廃プラ主要輸入国・地域の取引傾向	
廃棄物輸入規制のある国・地域	5 - 10
a. 中国本土	5
b. インド	6
c. マレーシア	7
d. 台湾	8
e. タイ	9
f. ベトナム	10
廃棄物輸入規制のない国・地域	11 - 14
g. 香港	11
h. インドネシア	12
i. 韓国	13
j. トルコ	14
C. 国・地域の選定およびデータ出典に関する情報	15

## B. 主な調査結果および主要な考察結果

### (1) 主な調査結果

a. 中国による国外廃棄物の輸入は、中国本土および香港に影響を及ぼした輸入の全面禁止措置により、2016 年後半にピークを迎えた後、2018 年初頭にはほぼ完全に終息した。香港は、中国による 2018 年のほぼ全ての輸入で輸出入の拠点の役割を果たした。

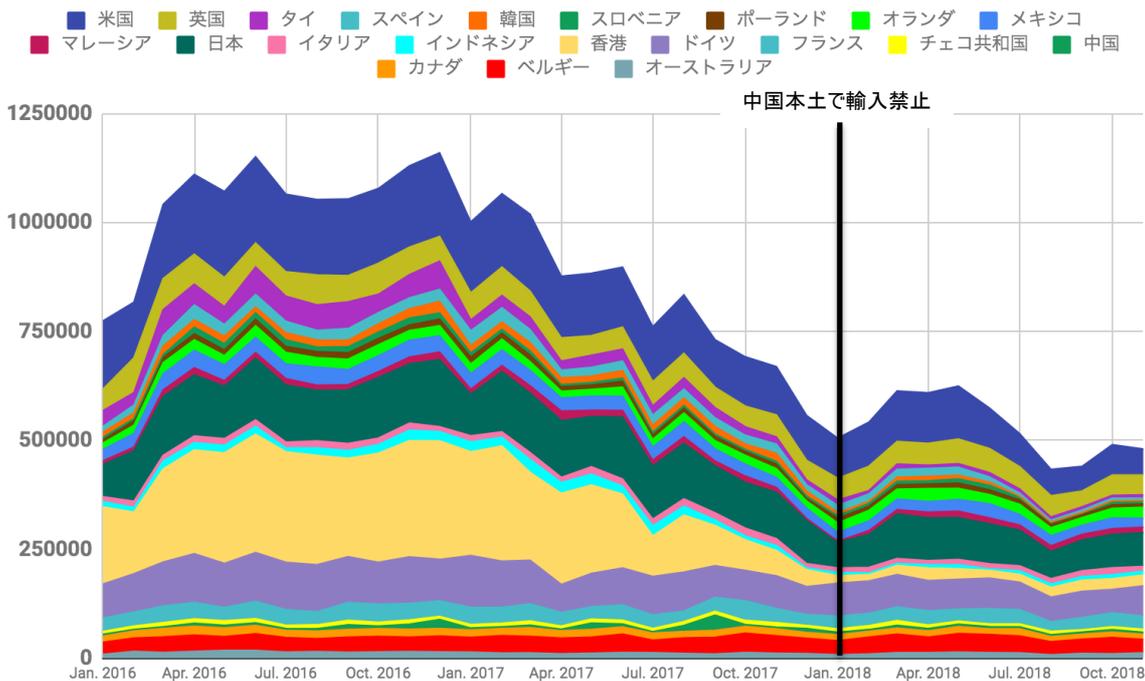
中国本土でのプラスチックの受入停止に伴い、世界の輸出量は明らかに減少した。2018 年には、世界の総輸出量は 2016 年比でほぼ半減した。

ごみの輸出先にも変化が起こり、香港経由で東南アジアへ向かうことが多くなった。香港によるごみの総受入量も以前より減少しており、輸出量の大幅減の一因になったと思われる。ただし、減少の原因および結果は他にもあると考えられ、それらを見過ごすわけにはいかない。

	上位 21 の国・地域の総輸出量(トン)	各年 1 月から 11 月の総輸出量	比率の推移 (1 月から 11 月、前年比)	比率の推移 (1 月から 11 月、2016 年比)
2016	12,502,343	11,342,439	---	---
2017	9,986,811	9,429,562	-17%	-17%
2018	5,828,257*	5,828,257	-38%	-49%

表 1: 2016 年から 2018 年の輸出で上位を占める 21 の国・地域による廃プラ輸出量(トン)の推移

\* データ対象は 1 月から 11 月のみ



グラフ1: 2016年1月から2018年11月の輸出で上位を占める21の国・地域による廃プラ輸出の推移(ひと月当たり、トン)

輸出で上位を占める21の国・地域による廃プラ輸出量は、2016年中頃から2018年末にかけて徐々に減少し、毎月110万トンから50万トンになった。同期間で、総輸入量も同様の割合で減少した。

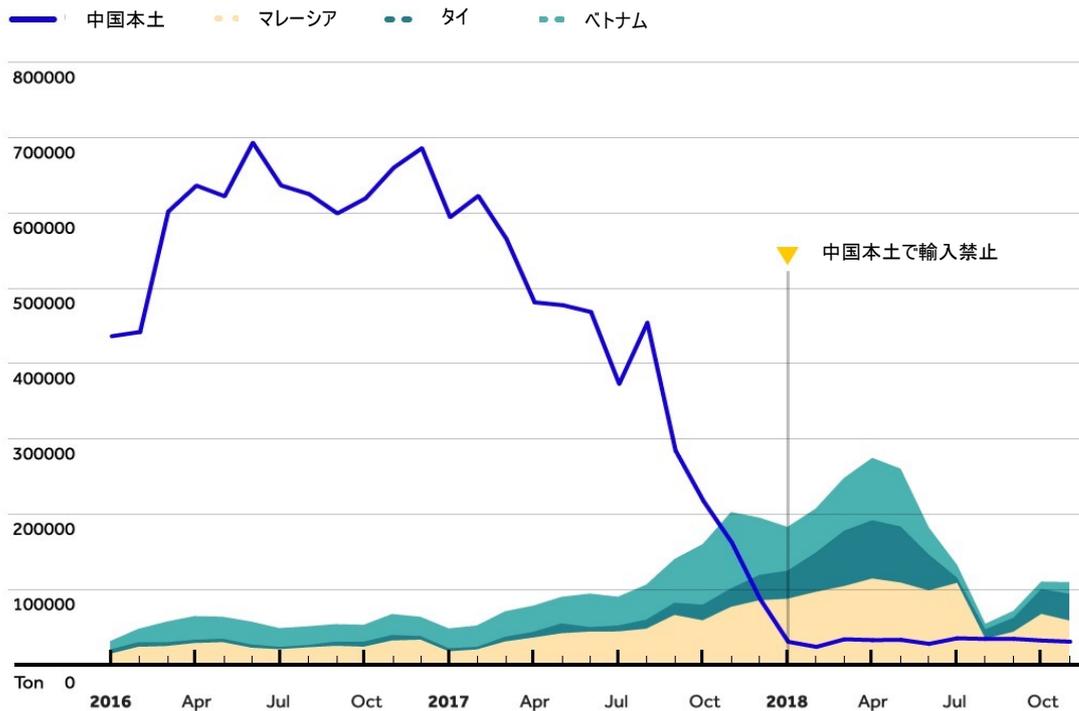
2018年1月から11月の輸出で上位5位を占める国・地域は以下の通り:

米国(総輸出量の16.5%)、日本(15.3%)、ドイツ(12.6%)、英国(9.4%)、ベルギー(6.9%)

2018年1月から11月の輸入で上位5位を占める国・地域は以下の通り:

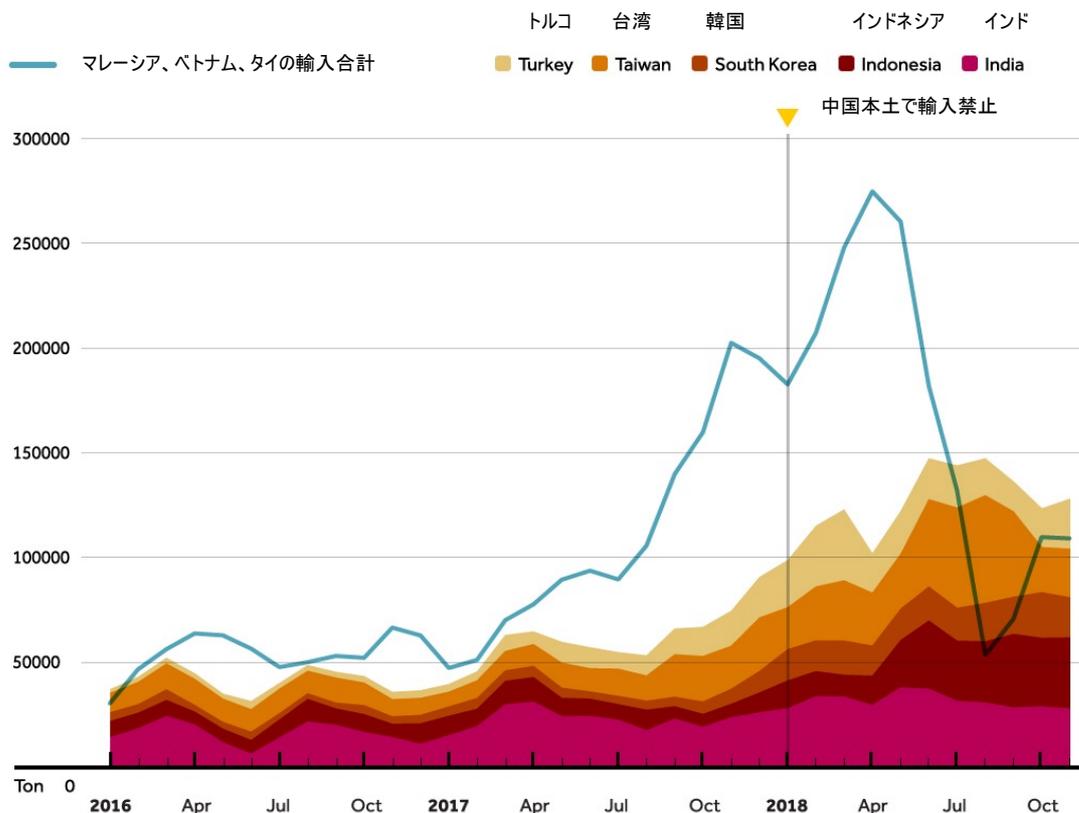
マレーシア(総輸入量の15.7%)、タイ(8.1%)、ベトナム(7.6%)、香港(6.8%)、米国(6.1%)

b. マレーシア、ベトナム、タイを中心とした東南アジアは、2017年中頃から2018年中頃にかけて廃プラの主要輸入国・地域となった(グラフ2)。これらの国や地域の多くが2018年中頃に輸入規制を導入した(詳細は4ページ「10の廃プラの主要輸入国・地域の取引傾向」を参照)。こうした新たな輸入規制により、減少傾向に拍車がかかったと思われる。



グラフ2: 中国本土、マレーシア、ベトナム、タイによる廃プラの輸入(ひと月当たり、トン)

新たな規制によってマレーシア、ベトナム、タイの輸入量が減少したことに伴い、インド、台湾、韓国、トルコ、インドネシアでは輸入量の増加が見られた。ただし、新たな輸入国・地域による第2波の増加量は明らかに小さく、マレーシア、ベトナム、タイの新たな規制に伴う輸入量の減少分を完全に占めているわけではない(グラフ3)。



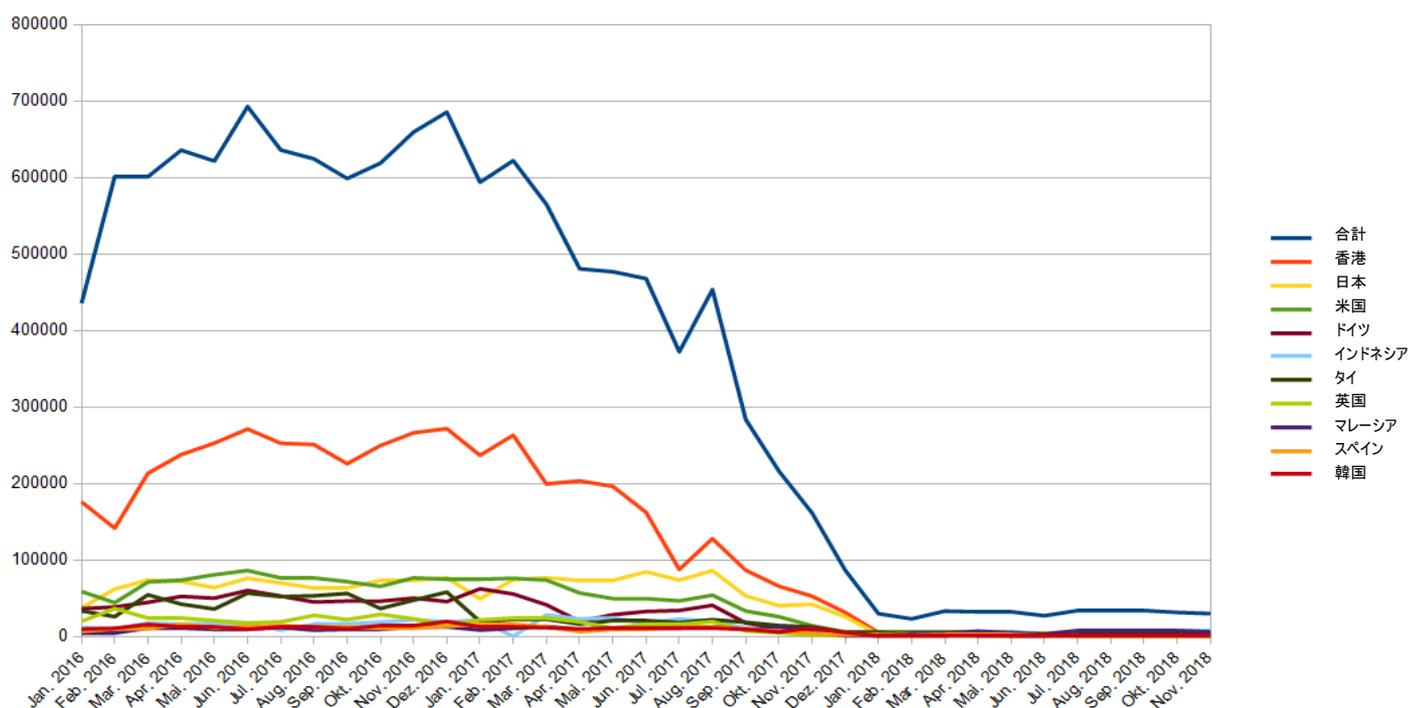
グラフ3: マレーシア、ベトナム、タイのプラスチックごみ輸入量とインド、台湾、韓国、トルコ、インドネシアの廃プラ輸入量の比較(ひと月当たり、トン)

## (2) 10 の廃プラ主要輸入国・地域の取引動向

中国本土で輸入禁止が実施されて数カ月経過すると、廃プラは東南アジアやその他の途上国・地域に移った。廃プラの流入は現地当局の関心事となり、一部の国・地域は、先例にならって制限を設け、制限の内容を検討することとなった。一方、依然として行動を起こさず、ほとんど規制のない廃棄物輸入システムを維持する国・地域もあった。

### 廃プラの輸入を禁止または制限している国・地域

#### a. 中国本土



グラフ 4: 中国本土への廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

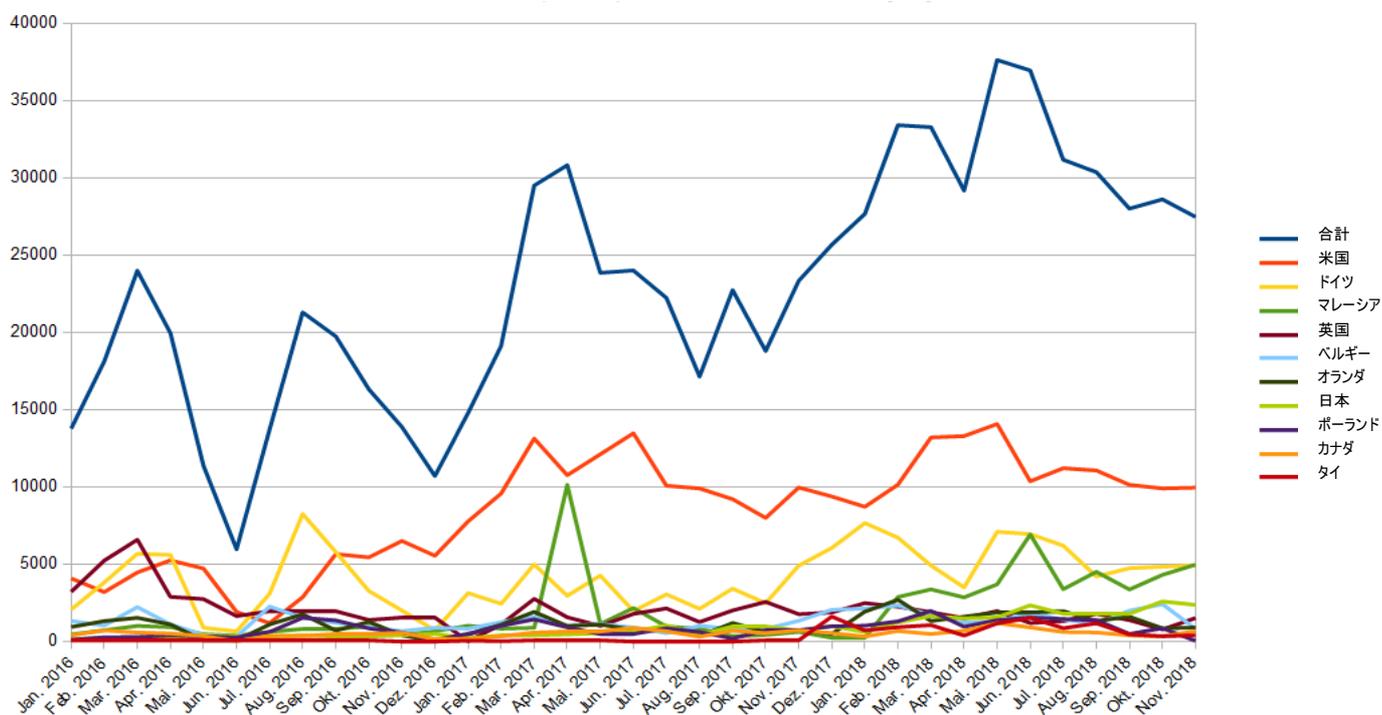
- ・ 2017 年 7 月、国外廃棄物と環境汚染に反対する運動の一環として、中国は家庭から出る廃プラとその他 23 種類の固体廃棄物の輸入禁止を 2017 年 12 月 31 より施行することを世界貿易機関 (WTO) に通告した<sup>7</sup>。純度 99.5% の条件を満たす産業由来の廃プラ<sup>8</sup>の輸入は 2018 年も継続されたが、2018 年 12 月 31 日よりすべての廃プラ(家庭系も産業系も含む)について輸入規制が強化されている<sup>9</sup>。
- ・ 中国本土の輸入量は、2016 年の月 600,000 トン超から 2018 年始め以降は月 30,000 トンまで減少し、その後は横ばいとなっている。
- ・ 2018 年もまだ、中国本土はインドネシアから月 7,000 トン、マレーシアから月 6,000 トン、米国から月 5,500 トン、日本から月 4,000 トンを輸入した。

<sup>7</sup> China notifies WTO of ban on plastic, paper, textile waste imports. <https://www.reuters.com/article/china-environment/china-notifies-wto-of-ban-on-plastic-paper-textile-waste-imports-idUSL5N1K94IS> (published Jul 18, 2017, last accessed Apr 15, 2019)

<sup>8</sup> Environmental protection control standard for imported solid wastes as raw materials - Waste and scrap of plastics. <http://kjs.mee.gov.cn/hjbhbz/bzwb/gthw/gtfwzrkzbz/201801/W020180111497399479455.pdf>

<sup>9</sup> Notice from the Ministry of Ecology and Environment on the amendment of imported waste management list. [http://www.mee.gov.cn/xxqk2018/xxqk/xxqk01/201804/t20180419\\_629582.html](http://www.mee.gov.cn/xxqk2018/xxqk/xxqk01/201804/t20180419_629582.html)

## b. インド

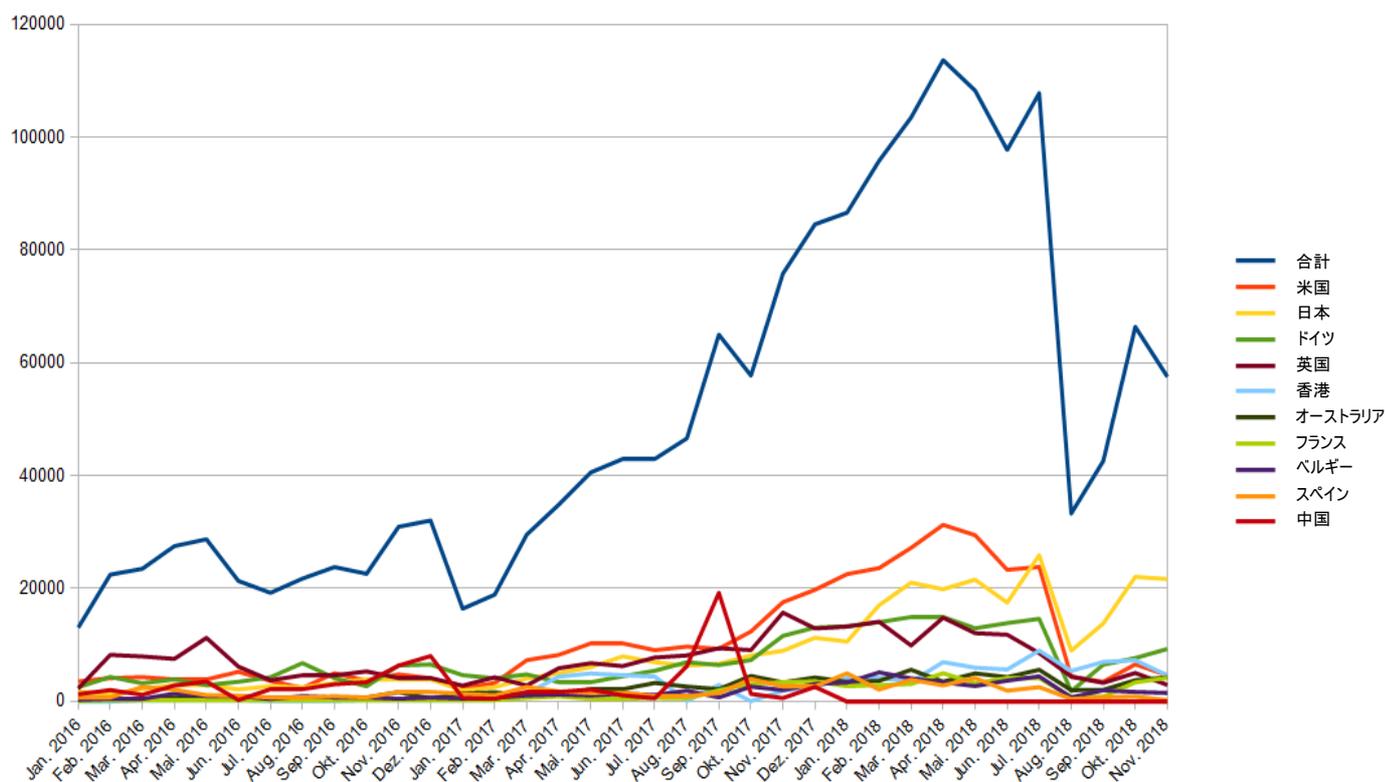


グラフ 5: インドへの廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

- ・ インドの廃プラ輸入量は着実に増加し、2016 年の月 12,000 トンから 2018 年中頃には月 35,000 トンとなった。米国からの毎月の輸入量が増加したことが、全体の輸入量増加の主な原因となっている。その後、わずかに減少して月 30,000 トンとなった。2018 年 11 月までの主な輸入先は、米国(月 10,000 トン)、ドイツ(月 5,000 トン)、マレーシア(月 5,000 トン)だった。
- ・ 2016 年以降、廃プラの輸入は特別経済区(SEZ)でのみ認められてきた。しかし 2019 年 3 月、インド政府は 2019 年 9 月より廃プラの輸入禁止を実施することを発表した<sup>10</sup>。

<sup>10</sup> Six month timetable for India plastics restriction, <https://www.letsrecycle.com/news/latest-news/indias-plastics-import-restriction-begins/>

### c. マレーシア



グラフ 6: マレーシアへの廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

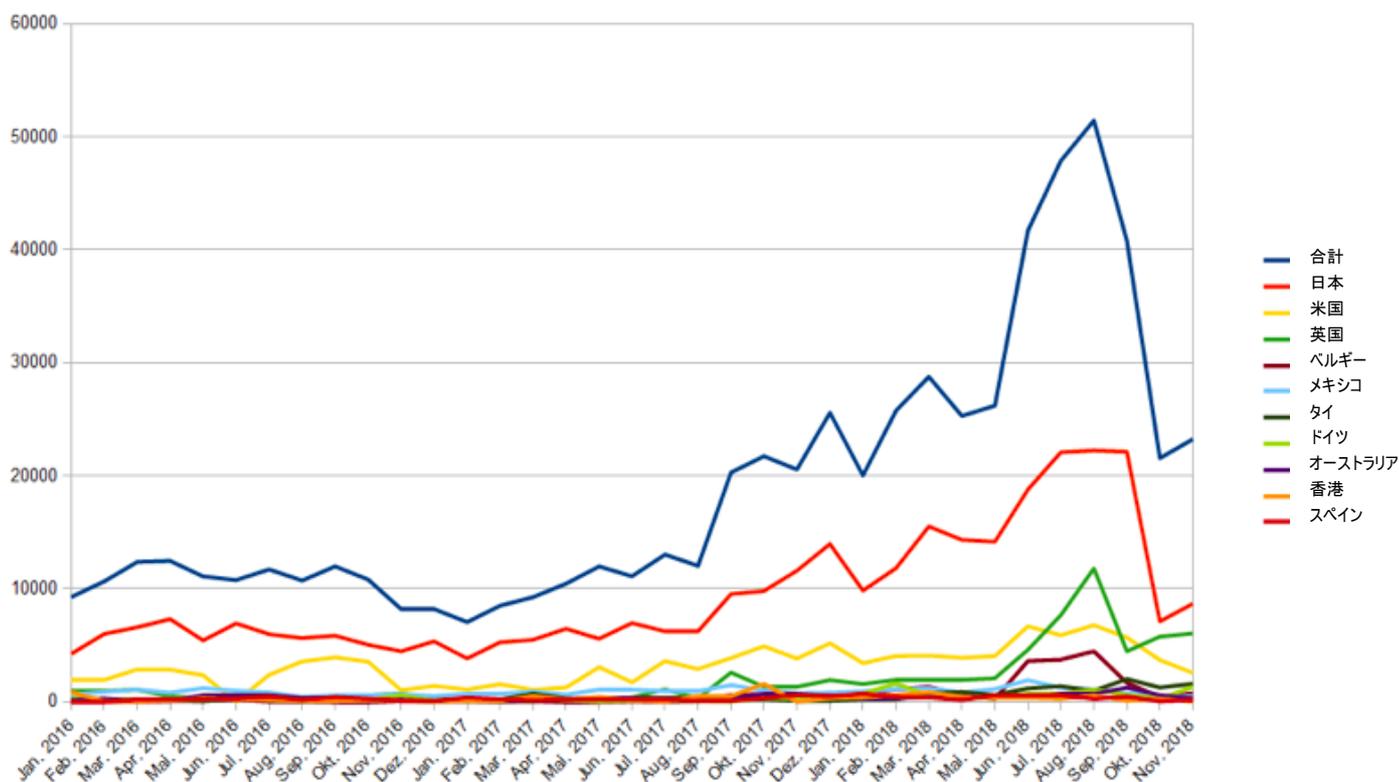
- マレーシアの輸入量は、2017 年始めの月 20,000 トンから 2018 年前半には月 110,000 トンと着実に増加し、その後 2018 年 8 月には月 35,000 トン程度まで減少したが、結局、月 60,000 トンまで再び増加した。
- 2018 年 8 月までの主な輸入先は米国だったが、その後の増加は、主に日本からの月 20,000 トンとドイツからの月 10,000 トンの輸入に起因していた。
- 2018 年 7 月、マレーシア政府は廃プラの輸入許可を無効とし<sup>11</sup>、その発行を 3 カ月間停止した。2018 年 10 月、政府は輸入廃プラに関税をかけ<sup>12</sup>、3 カ月の凍結後、工場が許可証を取得するための条件を厳格化する計画を発表した。
- 詳細は、2018 年 11 月 27 日にグリーンピース・東南アジアが発表した調査レポート『The Recycling Myth』<sup>13</sup>に記載されている。

<sup>11</sup> Illicit recycling factories exposed in Malaysia, <https://www.straitstimes.com/asia/se-asia/illicit-recycling-factories-exposed-in-malaysia>

<sup>12</sup> Levy for plastic waste imports, <http://www.mida.gov.my/home/7161/news/levy-for-plastic-waste-imports/>

<sup>13</sup> The Recycling Myth - Malaysia and the Broken Global Recycling System, <https://www.greenpeace.org/seasia/PageFiles/936685/The%20Recycling%20Myth%20-%20Malaysia%20and%20the%20Broken%20Global%20Recycling%20System.pdf>

d. 台湾

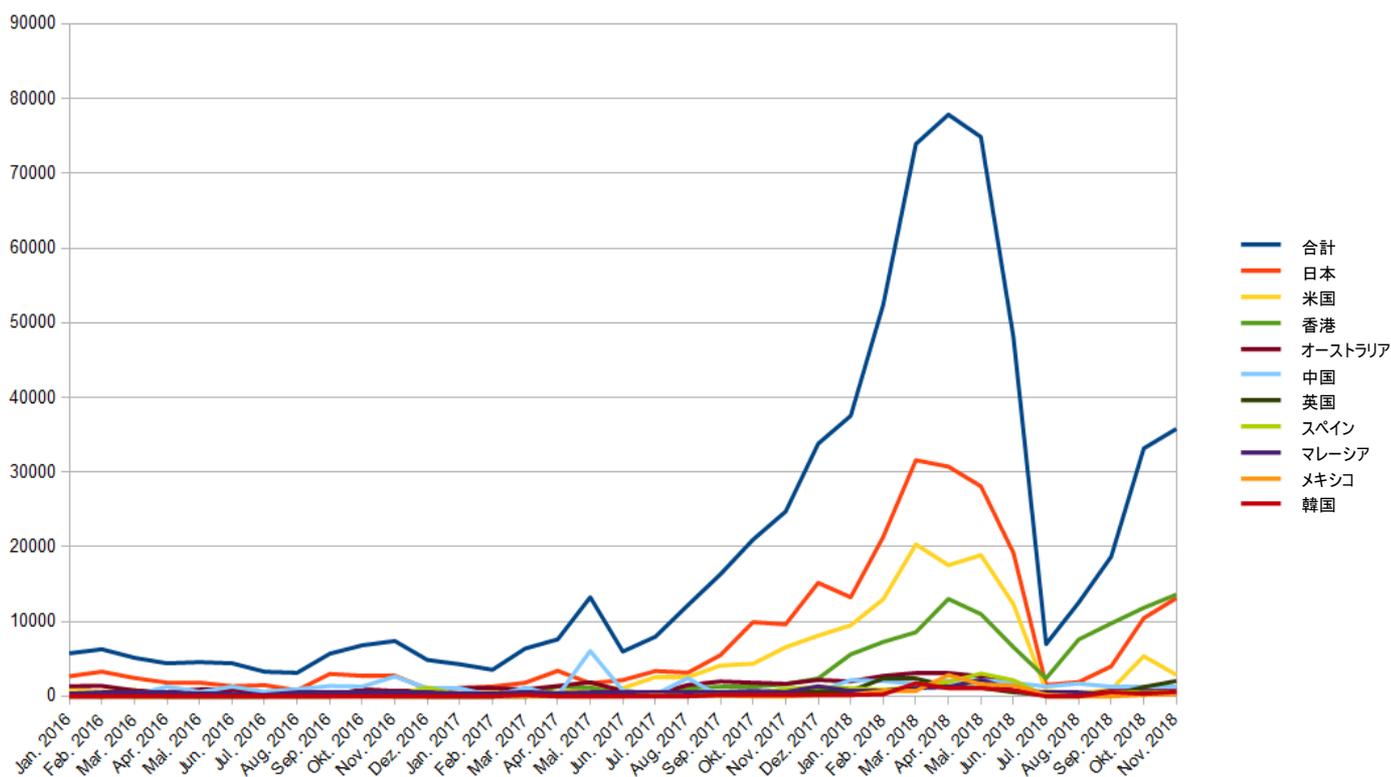


グラフ 7: 台湾への廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

- 台湾の輸入量は着実に増加して、2017 年中頃の月 10,000 トンから 2018 年中頃には月 50,000 トンとなり、その後 2018 年後半に月 20,000 トンまで激減した。主な輸入先は日本であった。
- 台湾は、2018 年 10 月に廃プラの輸入規制を開始した<sup>14</sup>。この規制により、単一素材または単一種の廃プラ以外は輸入が認められないこととなった。近い将来、台湾による輸入規制が同国の実際の輸入量にどう影響するかはまだ分からない。

<sup>14</sup> Amendment of requirements for import of plastic and paper wastes from Environmental Protection Administration Executive Yuan, EOC (Taiwan), [https://enews.epa.gov.tw/enews/fact\\_Newsdetail.asp?InputTime=1071001135117](https://enews.epa.gov.tw/enews/fact_Newsdetail.asp?InputTime=1071001135117)

e. タイ



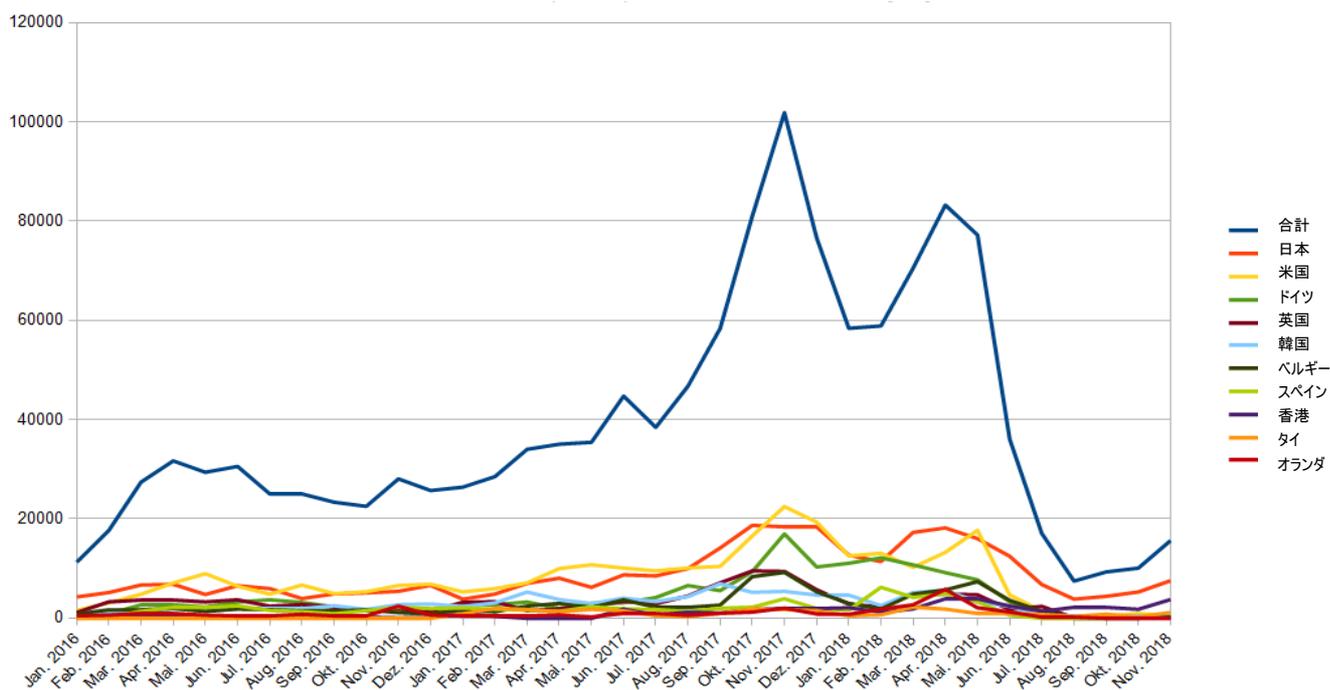
グラフ 8: タイへの廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

- ・ タイの輸入量は、日本、米国、香港を主な輸入先として、2018 年前半には月 75,000 トンまで急増した。その後、2018 年 7 月までに月 10,000 トン未満まで激減し、そして再び着実に増加して、2018 年後半には月 35,000 トンとなった。
- ・ 2018 年 6 月、タイ政府は電子廃棄物と廃プラの一時的な輸入禁止令を発表した<sup>15</sup>。3 カ月後、政府は 2021 年までに国外からの廃プラの輸入を禁止することを発表した<sup>16</sup>。

<sup>15</sup> Thailand halts imports of electronic, plastic waste, <https://news.thaivisa.com/article/22337/thailand-halts-imports-of-electronic-plastic-waste>

<sup>16</sup> Thailand to ban foreign plastic waste imports, [https://news.cgtn.com/news/3d3d774e796b444f7a457a6333566d54/share\\_p.html](https://news.cgtn.com/news/3d3d774e796b444f7a457a6333566d54/share_p.html)

f. ベトナム



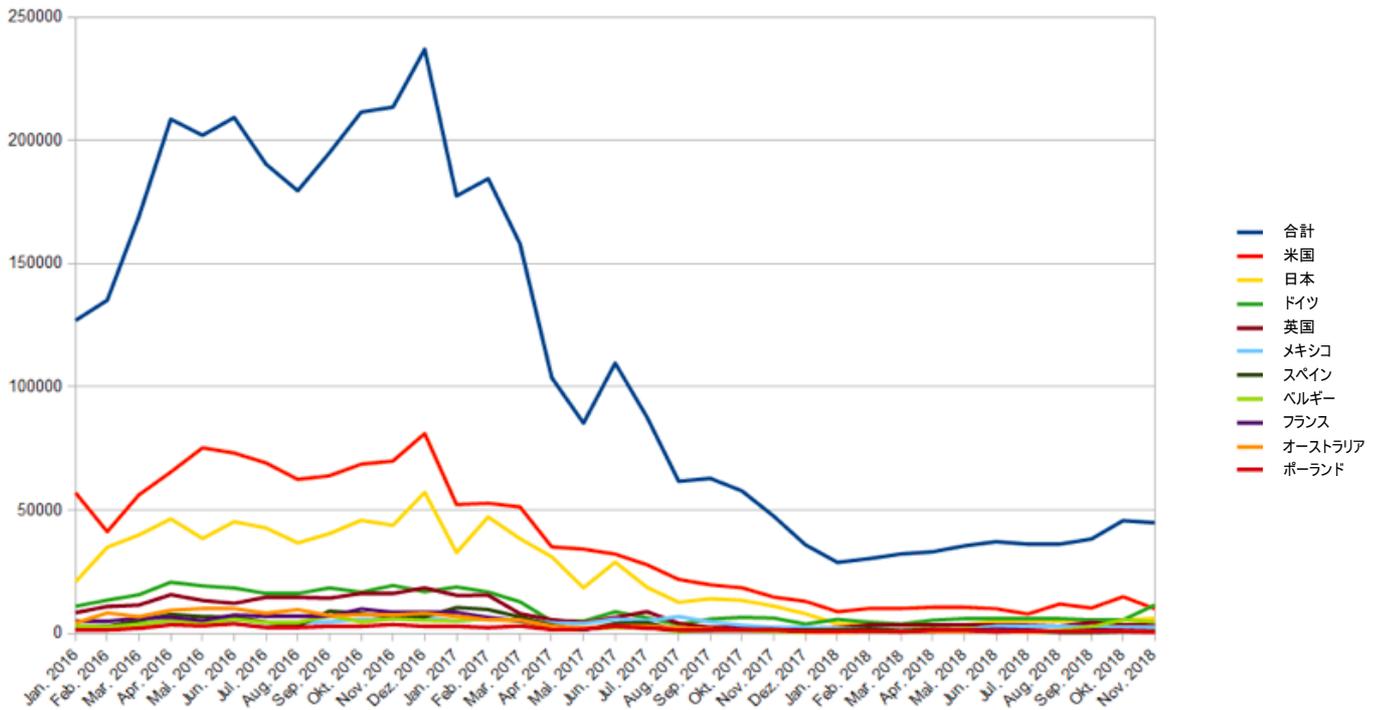
グラフ9:ベトナムへの廃プラ輸入量(トン) 上位10位までの輸入先を表示

- ベトナムの輸入量は、米国、日本、ドイツ、英国を主な輸入先として、2017年中頃に月100,000トンまで急増した後、2018年中頃には月7,500トンまで減少した。2018年後半にわずかに増加して月16,000トンとなった。
- 2018年5月より、ベトナムの主要港では、新たな通知が出されるまでの間、廃プラの輸入が禁止されている。また、ベトナム政府は2018年7月、これ以上新たに許可を出さないことを発表した<sup>17</sup>。

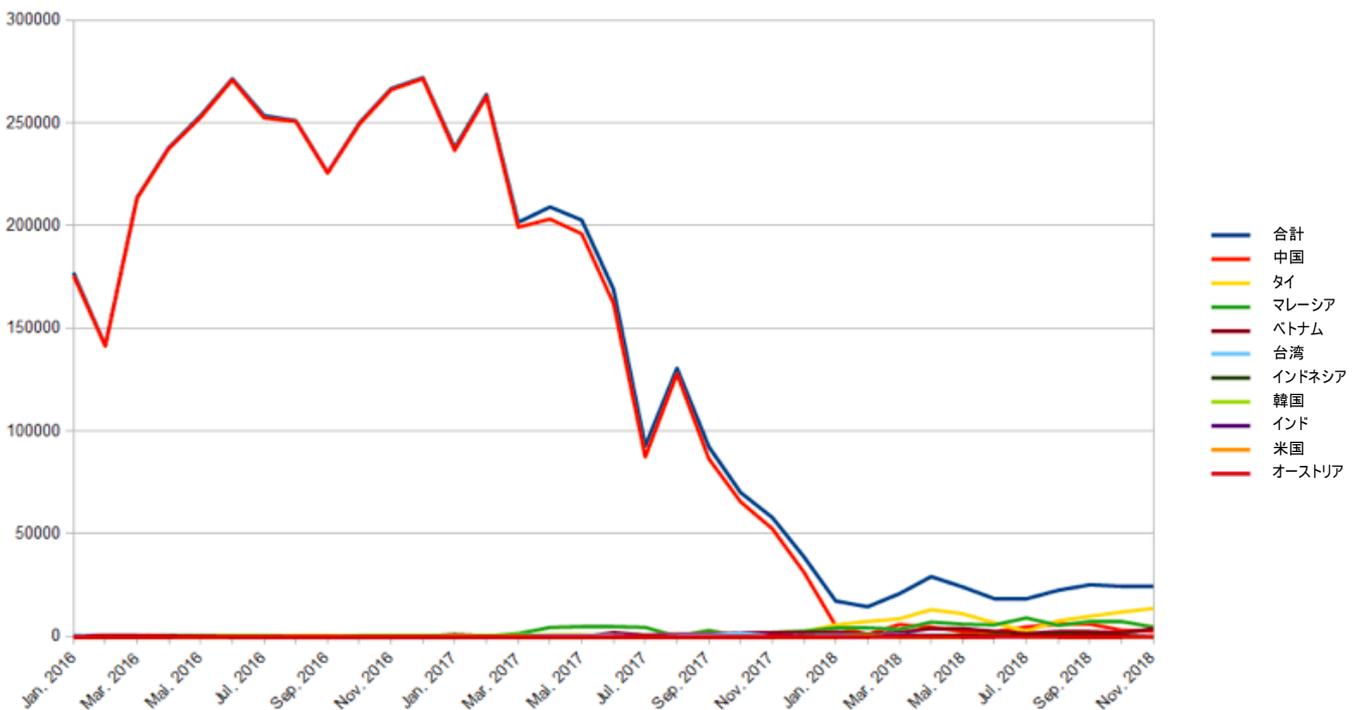
<sup>17</sup> Gov't will no longer grant licenses for waste imports, <http://news.chinhphu.vn/Home/Govt-will-no-longer-grant-licenses-for-waste-imports/20187/34304.vgp> <sup>18</sup> In South Korea, a lesson to be learned from a plastic waste crisis. <https://www.channelnewsasia.com/news/cnainsider/south-korea-plastic-waste-crisis-reducing-recycling-china-10805292>

廃プラ輸入に対して制限未設定または政策が不明確な国・地域

g. 香港



グラフ 10: 香港への廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

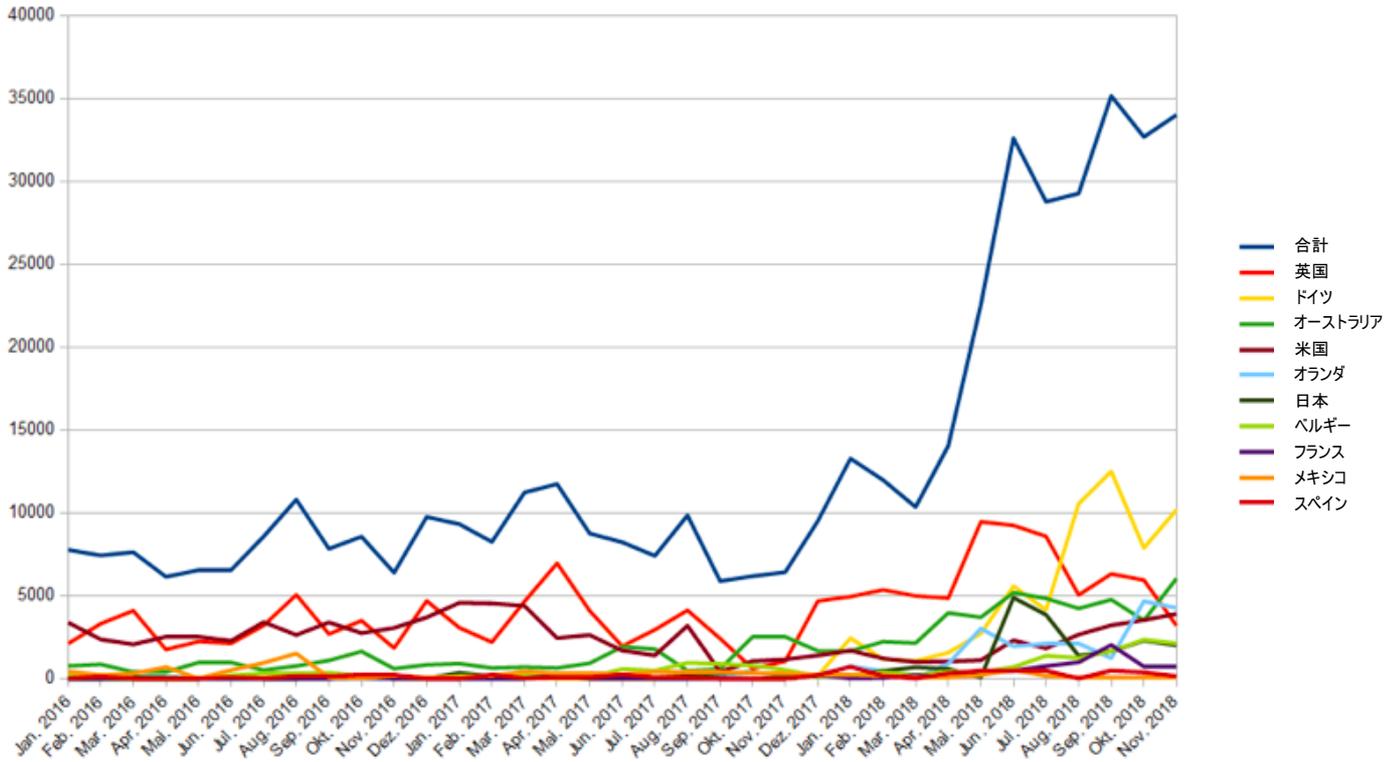


グラフ 11: 香港からの廃プラ輸出量(トン) 上位 10 位までの輸出先を表示

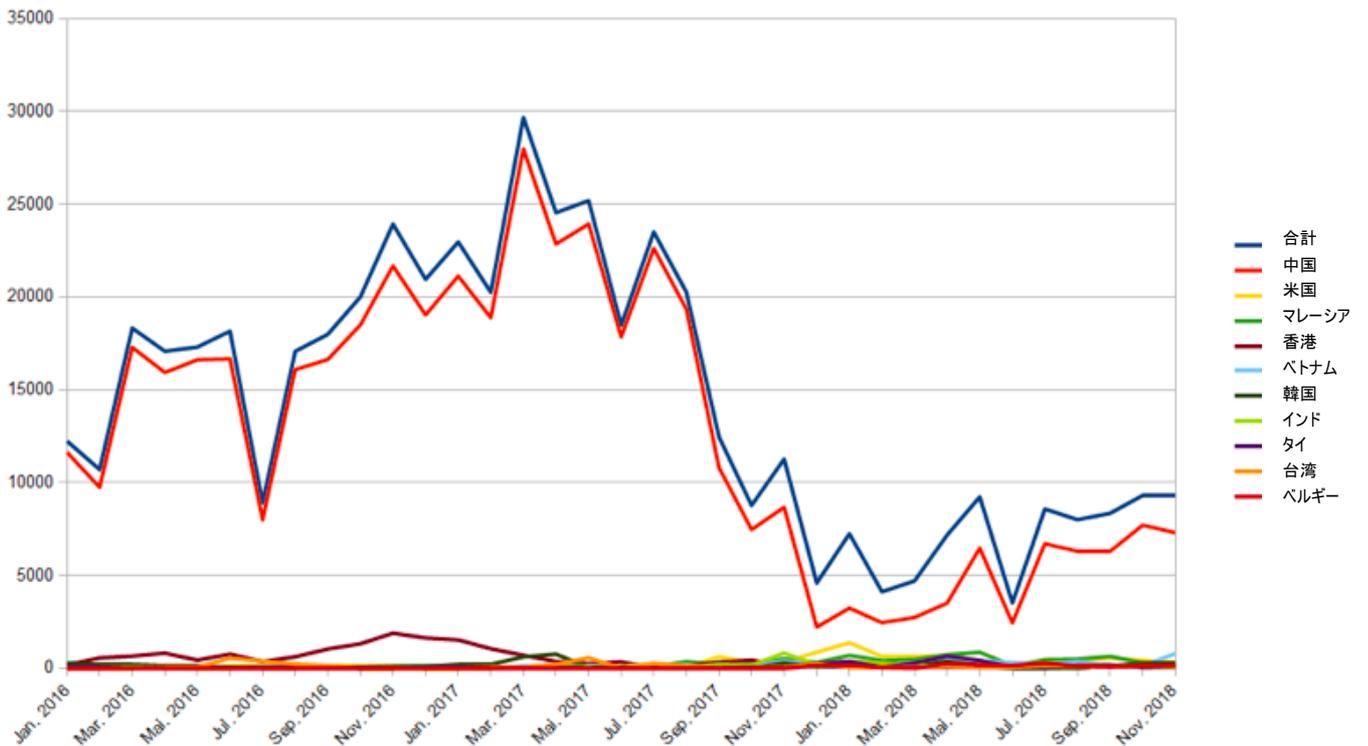
- ・ 香港は、世界の廃プラが中国本土に再輸出される際の主要拠点だった。2018 年までは、香港に輸入される廃プラのほぼすべてが中国本土に再輸出されていた。
- ・ 香港の輸入量は、2016 年の月 200,000 トン超から 2018 年前半には月 40,000 トンまで減少し、その後横ばいとなった。主な輸入先は、米国、日本、ドイツだった。

- ・ 輸出量も、2016年には月250,000トンほどだったが、2018年には月25,000トン程度と大きく減少した。廃プラの現在の行き先は、主にマレーシア、タイ、ベトナム、中国本土となっている。
- ・ 政府は、廃プラの輸入に対していかなる規制も発表していない。

h. インドネシア



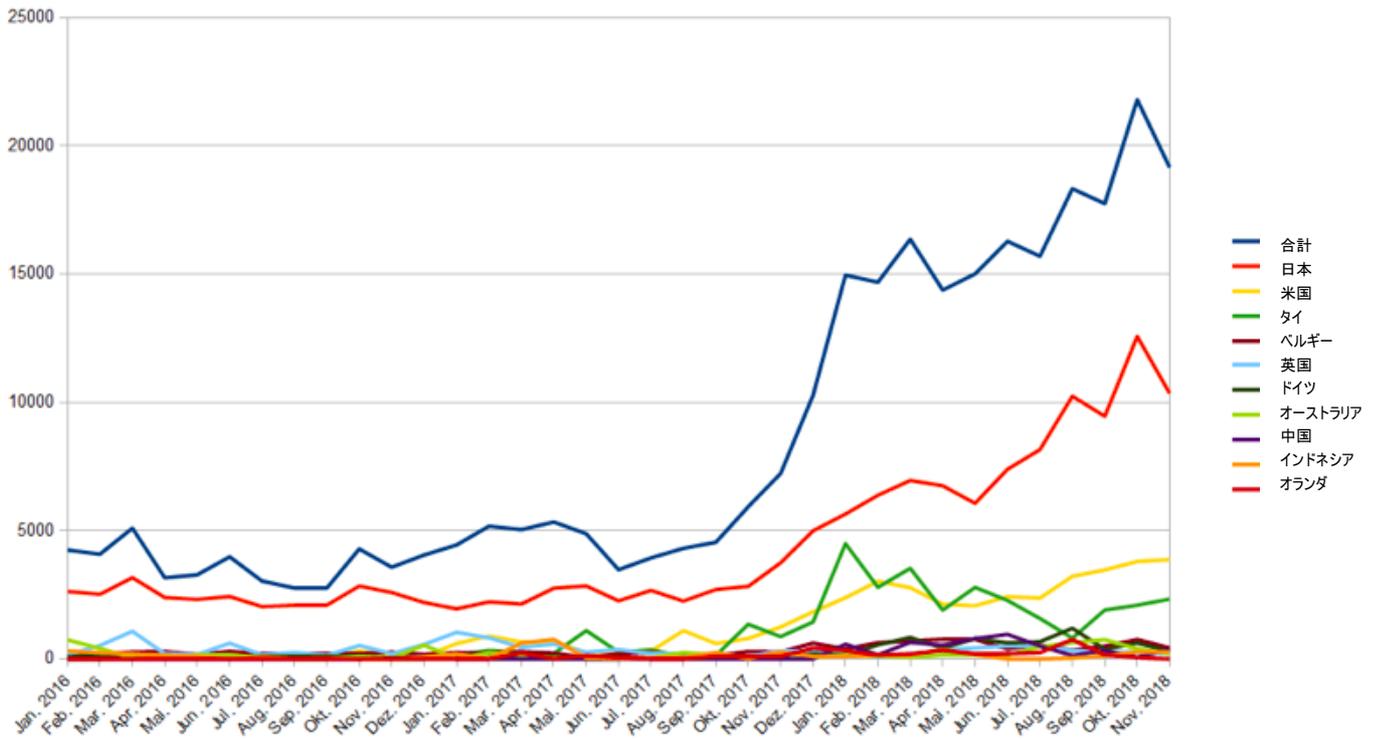
グラフ 12: インドネシアへの廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示



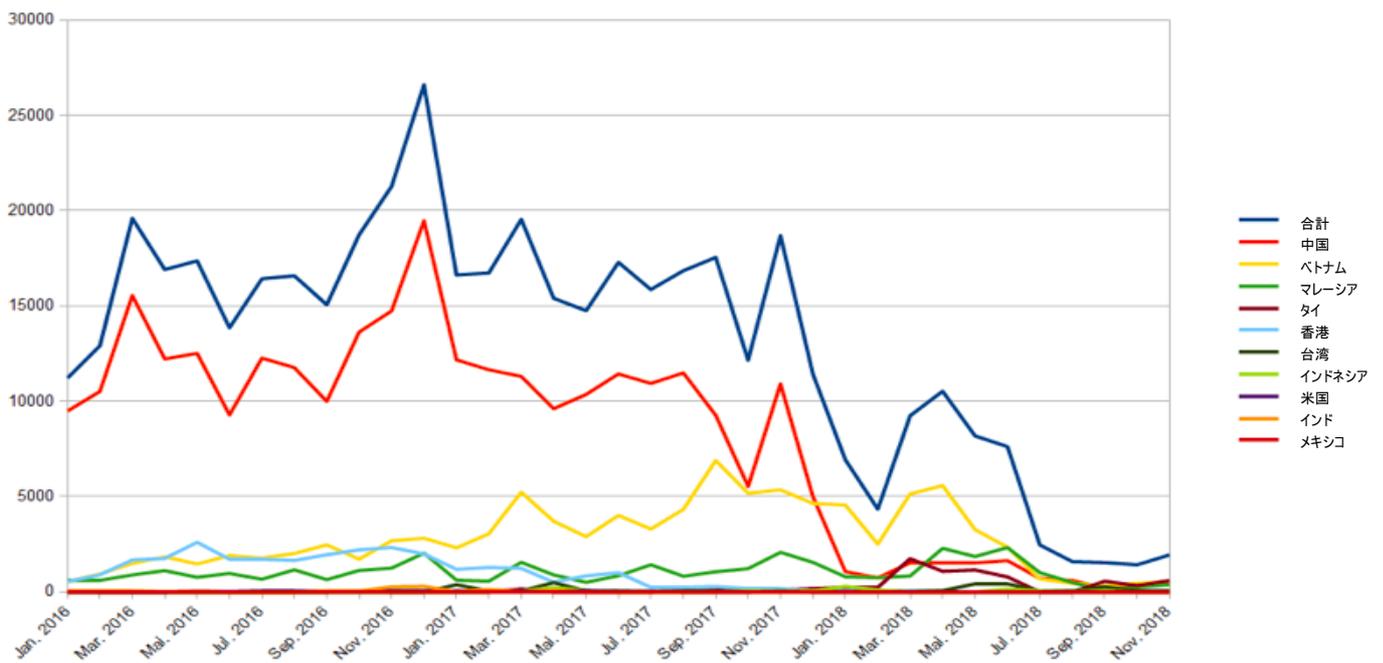
グラフ 13: インドネシアからの廃プラ輸出量(トン) 上位 10 位までの輸出先を表示

- ・ インドネシアの輸入量は、2017 年後半の月 10,000 トンから 2018 年後半には月 35,000 トンまで急増した。主な輸入先は、ドイツ月 10,000 トン、オーストラリア月 6,000 トン、オランダ、米国、英国からそれぞれ月 4,000 トンであった。
- ・ これまで輸出先はほぼ中国本土に限られていたが、2017 年中頃に月 25,000 トンとなったのをピークに減少し、2018 年には月 9,000 トンとなった。
- ・ 政府は、廃プラの輸入に対していかなる規制も発表していない。

i. 韓国



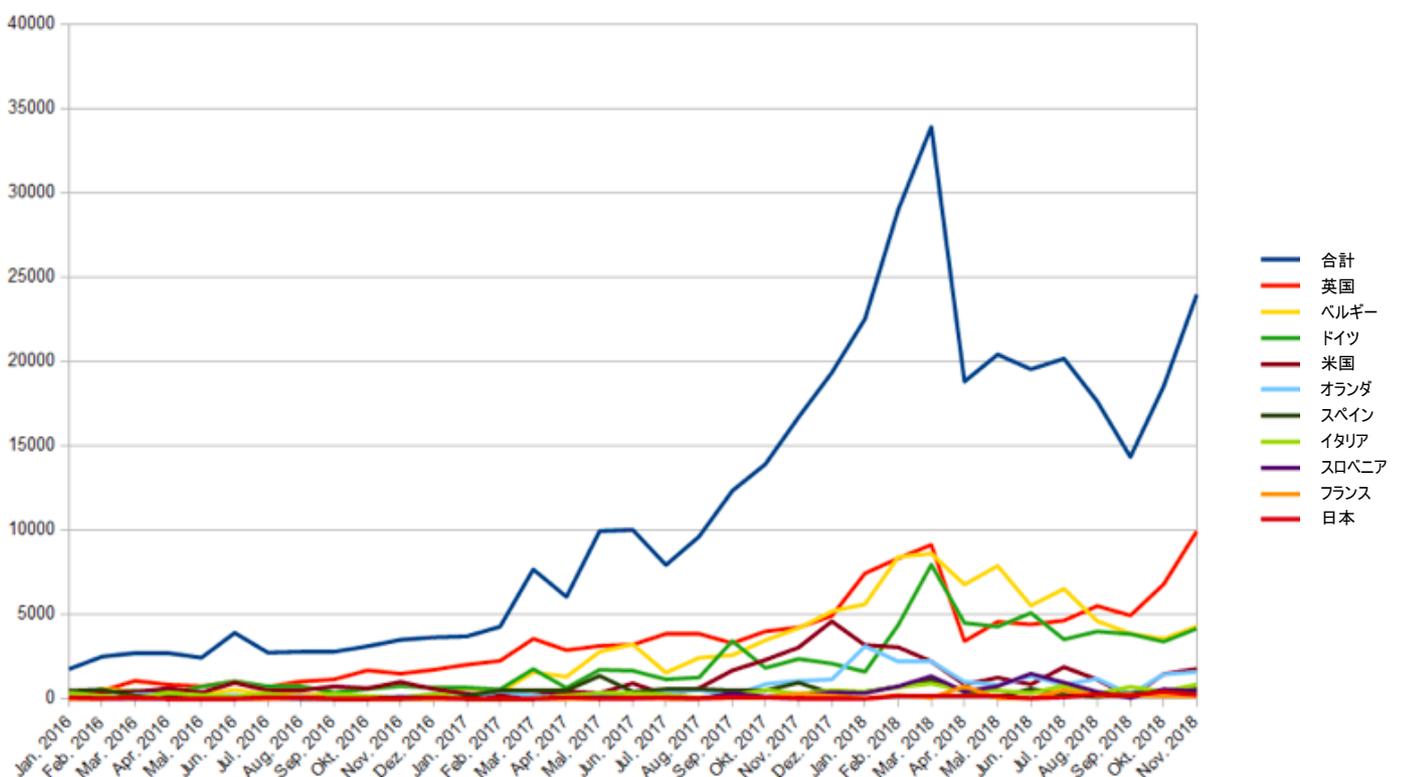
グラフ 14: 韓国への廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示



グラフ 15: 韓国からの廃プラ輸出量(トン) 上位 10 位までの輸出先を表示

- ・ 韓国では、輸入量が大幅に増加し、2017 年後半の月 5,000 トンから 2018 年後半には月 20,000 トンとなった。主に、日本からの輸入が月 10,000 トン、米国からの輸入が月 4,000 トン、タイからの輸入が月 2,000 トンと増加した。
- ・ この大幅な輸入量の増加が、現地で回収されるリサイクル可能資源の価格低下を招いたため、韓国国内で発生する廃プラのリサイクルには経済的なメリットがなくなった<sup>18</sup>。ごみが路上に溢れ始め、一部のリサイクル業者は廃プラをフィリピンに違法に輸出するという手段に出ている<sup>19</sup>。
- ・ 2018 年以前は、韓国の輸出量は月 15,000 トンで、主な行き先は中国本土だった。2018 年後半までに韓国の輸出量は月 2,000 トンまで減少した。

## j. トルコ



グラフ 16: トルコへの廃プラ輸入量(トン) 上位 10 位までの輸入先を表示

- ・ トルコの輸入量は、2016 年前半の月 4,000 トンから急増して 2018 年前半には月 33,000 トンとなった。その後、2018 年中頃には月 20,000 トンまで減少し、おおよそ横ばいとなっている。
- ・ 英国からの輸入量の急激な増加が 2018 年 10 月に始まっている。
- ・ 政府は、廃プラ輸入に対していかなる規制も発表していない。

<sup>18</sup> In South Korea, a lesson to be learned from a plastic waste crisis. <https://www.channelnewsasia.com/news/cnainsider/south-korea-plastic-waste-crisis-reducing-recycling-china-10805292>

<sup>19</sup> Korea takes flak for illegal waste export to Philippines. [https://www.koreatimes.co.kr/www/nation/2018/12/371\\_260197.html](https://www.koreatimes.co.kr/www/nation/2018/12/371_260197.html) (published Dec 11, 2018, last accessed Apr 15, 2019)

## C. 国・地域の選定とデータ出典

- ・ 本調査では、HSコード3915として2016年1月から2018年11月までの間に申告された廃プラの世界全体の輸入・輸出データを調べた。
  - HSコードとは、「商品の名称および分類についての統一システム(Harmonized Commodity Description and Coding System)」で、世界で取引される物品を分類するための国際標準システムである。
- ・ データの出典について:2018年4月以前のデータは国連商品貿易統計(UN Comtrade)データベース<sup>20</sup>に基づき、2018年4月以降のデータは各国の様々な関連統計データ<sup>21,22,23,24,25,26,27,28,29,30,31,32,33</sup>に基づいている。
- ・ (i)中国による輸入禁止前の2017年4月から9月と(ii)中国による輸入禁止後の2018年4月から9月の二つの期間におけるプラスチックごみの輸出量の数値を調べて、世界のプラスチックごみ輸出国・地域の上位21位を特定した。
  - 分析の対象とした輸出国・地域は次のとおり(50音順):イタリア、インドネシア、英国、オランダ、オーストラリア、カナダ、韓国、スペイン、スロベニア、タイ、チェコ共和国、中国本土、ドイツ、日本、フランス、米国、ベルギー、香港、ポーランド、マレーシア、メキシコ。
- ・ 特定した上位21の輸出国・地域について、それぞれの上位輸出先と、2017年中頃に始まった中国の輸入禁止によって輸入や輸出に急激な変化が見られた国・地域を特定した。
  - 最終的に分析の対象とした輸入国・地域は次のとおり(50音順):イタリア、インド、インドネシア、オランダ、オーストラリア、カナダ、韓国、スペイン、タイ、台湾、中国本土、ドイツ、トルコ、フランス、米国、ベトナム、ベルギー、香港、ポーランド、マレーシア、メキシコ。
- ・ これら上位21の輸出国・地域と上位21位の輸入国・地域間の廃プラの輸入・輸出に関する集約データが本分析の根拠となっている。

<sup>20</sup> UN Comtrade Monthly Trade Database, United Nations Statistics Division, <https://comtrade.un.org/monthly/Main/Data.aspx#>

<sup>21</sup> Eurostat Database, European Commission, <https://ec.europa.eu/eurostat/de/data/database>

<sup>22</sup> Australian Department of Foreign Affairs and Trade, Australian Department of Foreign Affairs and Trade Statistics Section, <https://dfat.gov.au/pages/default.aspx>

<sup>23</sup> Canadian International Merchandise Trade (CIMT), Statistics Canada Government of Canada, <https://www5.statcan.gc.ca/cimt-cicm/home-accueil?lang=eng>

<sup>24</sup> Hong Kong Interactive Data Dissemination Service for Trade Statistics, Census and Statistics Department Government of Hong Kong, <https://tradeids.censtatd.gov.hk/Index/>

<sup>25</sup> SYSTEM ON INDIA'S MONTHLY TRADE, Department of Commerce GOVERNMENT OF INDIA, <http://commerce-app.gov.in/meidb/comcntg.asp?ie=i>

<sup>26</sup> Indonesian Information Systems Statistics Service, Indonesian Directorate for Dissemination of Statistics, <https://silastik.bps.go.id/v3/index.php/site/index/>

<sup>27</sup> E-Stat - Site for Japanese Government Statistics, Statistics Bureau Japanese Ministry of Internal Affairs and Communications, <https://www.e-stat.go.jp/en/>

<sup>28</sup> Malaysia's External Trade Statistics Database, Department of Statistics MALAYSIA, <https://metsonline.stats.gov.my/>

<sup>29</sup> Mexican System of Commercial Information Via Internet SIAVI, Jorge Mexican Secretary of Economy, <http://187.191.71.239/>

<sup>30</sup> Official Korean Trade Statistics, Korea Customs Service, [https://unipass.customs.go.kr:38030/ets/index\\_eng.do](https://unipass.customs.go.kr:38030/ets/index_eng.do)

<sup>31</sup> Official Taiwanese Trade Statistics, Taiwanese Bureau of Foreign Trade, <https://cus93.trade.gov.tw/FSCE010F/FSCE010F/>

<sup>32</sup> Thailand Official Trade Data, Thailand Ministry of Customs, <http://tradereport.moc.go.th/TradeEng.aspx>

<sup>33</sup> USA Trade Data Online, US Census Bureau, <https://usatrade.census.gov/>

グリーンピース・ジャパンは、環境保護と平和を願う市民の立場で活動する国際環境 NGO です。  
独立・中立を維持するため、政府や企業から資金援助を受けずに独立した活動を展開しています。

# GREENPEACE

原題: “Data from the global plastics waste trade 2016–2018 and the offshore impact of China’s foreign waste import ban. An analysis of import–export data from the top 21 exporters and 21 importers.”

発行者: 国際環境 NGO グリーンピース・東アジア

発行日: 2019 年 4 月 23 日

日本語版: 『2016～2018 年の世界の廃プラ取引データおよび中国の国外廃棄物輸入禁止措置による他国への影響——輸出入それぞれで上位を占める 21 の国・地域の輸出入データ分析』

発行者: 国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

発行日: 2019 年 5 月 20 日

日本語版問い合わせ先:

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F

Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

プラスチック問題プロジェクトリーダー: 大館 弘昌 広報担当: 土屋 亜紀子

[www.greenpeace.org/japan](http://www.greenpeace.org/japan)